夕刊
磐城新聞
八月三日發行
（日曜祭日翌日休刊）
定價 一ヶ月金六拾五錢 郵税共金六拾錢
廣告料金 社説欄 一行一回金六拾錢 通信欄 一行一回金九拾錢
編輯兼發行人 柏木哲夫
印刷人 田村六郎
發行所 磐城新聞社
福島縣平市田町十六番地
電話 五〇番

信濃の旅（三）

島田忠夫

■山浦　下諏訪字高木の山上に島木赤彦先生の舊家がある。

墓がある。

柿陰山房には、女流歌人として知られた未亡人久保田不二子女史が居られた。亡師の家のさま、庭の趣きも皆懐しきものばかり赤彦先生の臨終の歌

魂はいづれの方へ行くならむわれに用なき事を思ひ居り

を思ひ出し、しばし暗然たる思ひあり。遺兒周介さんの案内にて赤彦先生の墓に集室は、實に夥しき土器石器が、整然と陳列せられてゐる。島居龍藏博士の『諏訪考古學研究』には多數、田實邸の藏品を掲載してゐる。

田實邸は山腹のしづかな處、さんさんと清水の落つ

落付いて三十年餘、地方の大成功者である。

○

木村清治氏や賀澤忠治氏を話して、懐しさに目をしばたたく田實氏は、清水を取入れた清楚な林泉に向いていろ〳〵と話す。島木赤彦先生と親交深かりしこと現に赤彦の遺墨を所藏されてゐる。

○

さらに田實文朗氏は多年考古學に深い研究を積まれてゐる。田實氏の考古學蒐！』

横に並んでゐる三郎が、ひちの先で、コツンとおれをつゝいて、庭の方を、あごさした。安は、日のあたる地べたにしやがんでときどき垂れて來る鼻汁をズルンズルンすゝり上げながら短かい棒の先で、いつしん

磐城歌壇

夫生　樵

○樹の葉の零す朽葉にほひ立ち吐氣もよほして歩み離れり

○赤き屋根に竹の秀ゆるれいたいたし吾が身と思ふに雨は降るなり

○雨ぐものただなばり低きに東の山脈の色青くすみたり

○青嵐を雨こめふれば山下に驟の驟手ばねれて立つなり

○おもおもと乘りし桑に雨やめりと思ふ頃ほひ實は熟れにけり

る夜を二人は酔ふた。そして田實氏は三春の盆踊を、僕は平のそれを踊つた。かやうなこども、人生行路の一端である。

4日月
（一、八一五）△長藩英佛米蘭四國の軍艦と下關に戰ふ（元治元）△富士金明・銀明の二水初氷（昭和五）△修業年限短縮の

時代警語

○塵積つて山を成す……（俚諺）

單に金錢上のみで無く心の修養にも智識の開發も將た慈善の行爲にも應用すべきである、若し吾人は無益の訪問をなし無益の雜談に耽るが爲に浪費しつゝある時間を有益なる事に用ひたらんには到底不可能ならんと思はるる程の大事業も遂行する事が出來る……

學則改革案文部省議決定△第五回全日本都市對抗野球大會神宮球場で開催△駐日支那公使代る、後任蔣作賓氏に決定△ロビンス機惡天候の爲フェアバンクスに不時着、壯擧挫折す（同六）

社會の今日

○

夏虫やあわたゞしげに灯に集ふ　六山人

浸けてあるビールに清水逃る　野風呂

童話　安の話（四）

千葉省三

『見ろ！安が來てッから

ひちの先で、コツンとおれをつゝいて、庭の方を、あごさした。安は、日のあたる地べたにしやがんでときどき垂れて來る鼻汁をズルンズルンすゝり上げながら短かい棒の先で、いつしんに土の上へ何かかいてゐる。

『畫えかいてんだぞ、きつと』

『畫え！』

『うん！ホラ、こつち見ちやかき、こつち見ちやかきしてら』

安は、月井先生のコグバンの畫をまねて、兎の畫をかいてゐるのらしい。

『出來んだんべか。安に』

『出來ッかも知んね、血すぢッちこともあッかんな。ホラおめえお梅乞食の父は繪かきだつたッちこんぢやねぇか、うめえかも知んねぞ、おららより』

三郎とおれは、安に氣をとられてむちうちになつて外をながめてゐた。

そのうち、やつと出來上ら出て來た。

拈華微笑

◇　物價は下る。商賣はあがつたり

◇　就職率二割。八割方喰へぬ證據

◇　去月の先月に較べて二萬二千噸の發送減。ひどい今年の夏痞せ

◇　けふ珍しく九十度を下る、尤も今度の月曜日はもう立秋だ

◇　强盜の噂も出たり涼み臺

○……○

荒縄で安の足をしばつて四ッんばひに這はせた。

『啼くんだぞ！いゝか、キユウ、キユウつて……そしてあばれんだ、原ッぱちうはかけまはんだ。立つちやだ

安は、なかなかうまくやつた。鼻づらを地べたにすりつけるやうにして、悲しげになきながら、むちやくちやにころげまはつた、大作は薪割りのかはりに竹の棒をふり上げてそのあとを追ひまはした。

見物人は、ワアワア云つて逃げ歩いた、おれは、ほんとにしりもちをついてしまつた。

そのうちに、大作のふりまはす竹の棒が、まちがへてピシリと安の面に當つた

『いてえ！』

安は頬ッぺたをおさへて立上つた。

『かんべん、かんべん』

大作も、きまりわるさうに竹の棒をおろした。

豚ころしの遊びはすゐぶん面白かつた。

それから、おれらは、ときどき墓場の芝ッ原でこの遊びをくりかへした。そのので、おれは仕方がないかたびに安が豚になつた。

みんなきまつてしまつた

ら六銀治になることにした六銀治は豚の喉笛を切る役目だつたが臆病なので、ビクビクしてゐるうちに豚トあばれられて、轉んで足をくぢいてしまつた。その通りやらされるのだからあんありやいゝ役目ちやなかつた

人の方はきまつたけれどかんじんの豚になり手がない。竹も、宗五郎も、いやだといふ。みんな見物人でたくさんだといふ。

『安！なかまに入れてやつから、おめえ豚ンなれ』

大作は、小屋のわきでこつちを見てゐた安をつかまへて云つた。

『なッか！安』

『うん！なら』

安は、ニヤニヤ笑ひながら出て來た。

『うん！ホラ、こつち見ちやかきしてら』

安は、月井先生のコグバンの畫をまねて、兎の畫をかいてゐるのらしい。

『出來んだんべか。安に』

『出來ッかも知んね、血すぢッちこともあッかんな。ホラおめえお梅乞食の父は繪かきだつたッちこんぢやねぇか、うめえかも知んねぞ、おららより』

三郎とおれは、安に氣をとられてむちうちになつて外をながめてゐた。

そのうち、やつと出來上ら出て來た。

お蘭陀お蝶

（98）

講談

渡邊默禪作
布施長春畫

『誰が……そんな譯はけちりん七輪、ばつばと煽いでや賭場ッ這入りも出來やしねえ、平山の客ン坊は袞美は後だと吐しやがつて碎すつぱ酒代も出しやがらねへし、こんな間の惡い日はねした

『さ、此の財布でがす、なんば入つてゐるだか私にや解らねえが、いゝ音がする

右の手に持つてゐる稿の財布夫れを振るとチャララン と鳴る。

『おい、ちよつと待つた。其の稿に見覺えがあるぞ』

兵はわざと其の手元を覗

九郎殿の御新造さまだ』

『鴉天狗の山の神かへ、いやだなあ』

『手前の鼻は内の方へ出張つてゐるから恰ど可からうオイそのつもりでちよつと待つて呉らつせえ』

背後から呼びかけて、すた〳〵と駈け寄つて來た者があつた、其れが今まで尾もその口前でコロリと殺られ行してゐた簑笠出で立ちの男。

『何だい？』

兵九郎は立止まつた、驚の樣な眼をぢろりぢろり

『お前さまぢやねへか、落し物をなされたのは……何か落さつしやりはしねぇだ

『え、落し物？』

兵は懐中から腰を掻き探

『いんや、俺ぢやねぇ』

『ハテネ、たしかにお前樣の跡で拾つたんだがね』

簑を小脇に笠を提げて手拭を冠つた筒袖股引の百姓鼻立さへはつきりしないまでに顔中泥塗れになつてゐた。

『其の品は一体何だ？』

『金でがすよ』

『えッ、金？』

兵は何故か四邊を見廻は

『ハ、、、脆い奴だ、是だから女喰は一生止められねぇ』

兵はにたにたと笑つて

『だが二分ばかしの小粒ちや賭場ッ這入りも出來やしねえ、平山の客ン坊は袞美は後だと吐しやがつて碎すつぱ酒代も出しやがらねへし、こんな間の惡い日はねした

『さ、此の財布でがす、なんば入つてゐるだか私にや解らねえが、いゝ音がする

右の手に持つてゐる稿の財布夫れを振るとチャララン と鳴る。

『おい、ちよつと待つた。其の稿に見覺えがあるぞ』

兵はわざと其の手元を覗

獨言を言つて、東横堀畔を本町橋の方へぶら〳〵と歩く。

『ア、モシ〳〵ちよつくらちよつと待つて呉らつせえ』

背後から呼びかけて、すた〳〵と駈け寄つて來た者があつた、其れが今まで尾もその口前でコロリと殺られ行してゐた簑笠出で立ちの男。

『何だい？』

兵九郎は立止まつた、驚の樣な眼をぢろりぢろり

『お前さまぢやねへか、落し物をなされたのは……何か落さつしやりはしねぇだ

『え、落し物？』

兵は懐中から腰を掻き探

ラヂオ

……四日…（木曜）…

仙臺　JOHK

△前六、〇〇A　ラヂオ體操
△九、〇〇A　氣象
△九、一〇　料理献立（若鳥キャベツトマト茨）朝倉長吉
、日用品値段
△一〇、三〇A　婦人講座（山と人）文學博士鷲尾順敬（野球放送なき場合にのみ放送）
△一〇、二〇　六、〇〇A　運動競技（東日大毎主催第六回全日本都市對抗野球大會狀況）明治神宮外苑より中繼
△正午A　時報
△後〇、〇〇A　オリムピック大會狀況（米國ロサンゼルス放送局より中繼）
△三、四〇A　氣象
△四、〇〇　ニュース
△六、〇〇A（子供の時間）吹奏樂　伊澤猛
△六、二〇A　コドモの新聞
△六、二五A　カレント、トピックス　ハロルド、バーマー
△六、三〇A　夏期英語講座　ジェイ、マツキンレイ　堀英四郎
△七、〇〇A　ニュース　氣象　生繭相場
△七、三〇L　講演（農家救濟問題に就て）九州帝大教授農學博士澤村康
△八、〇〇B　義太夫（伊賀越道中双六…沼津の段—文樂座淨瑠璃）豊竹駒太夫
△九、〇〇A　新内（お俊傳兵衛…堀川の段）富士松喜遊
△九、三〇A　時報
△九、三一A　滿洲より講演（滿洲風俗に就て）遼寧通信社長都甲文雄
ニュース　氣象　生繭相場

『あ、ゝ、其れだ〳〵私のだ、私が落したんだ』

村岡花子

廣告

技術本位
安心して御依頼下さいし
時計修理
平才槌小路
高橋時計店

提灯
御新佛御供養の
御法名入提灯の大奉仕
瓜形　一對房付　金一圓五十錢より
角形　同　金一圓九十錢より
其他岐阜提灯種々取揃へてあります
是非御下命は電話九五番
平四丁目
スガノヤ提灯店

夜診
陽春
内科　十二指腸虫病
淋病
皮膚病
婦人病
專門
內科部　外科部
胃腸病　性病
松村醫院
（平南町電話一〇七番）
療間

生花教授
池ノ坊流　生花を愛切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館
須藤まつの

葬祭の造花は美しく
して他の追從を許さざる
勉强振りの
博盛堂へ
店主
松本幸松
平町搔槌小路一番地
電話（呼出）五三五番

平町田町（電話五一三番）
高久病院
內科　小兒科
外科　花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄

貸切ノ御用命ハ
イツデモ眞先ニ（マツサキニ）松崎（マツサキニ）
三九二タクシーへ（ミクニ）（デンワ、ミクニ）

債權取立
◎債權ノ取立及讓受ケ致シマス。
◎財産ノ整理引受ケマス。
◎紛議ノ仲裁
◎會社ノ設立及會社整理精算ニ關スル相談
商業興信所代理部（平町字田町五三）
◎着手金イリマセン
◎取立料ハ取立高ノ一割乃至二割申受ケ
◎依頼者ハ住所氏名金額等御記入ノ依頼書ヲ御送リ下サイ

內科　外科　花柳病科　內臟　外科　一般（入院隨意）
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

吉田眼科病院
平町紺屋町

御子樣用防水マント
御子樣方の御通學には是非必要な防水マントを種々取揃へました。
◆ゴム引……0.85
◆中ゴム……1.30
◆同（女兒用）…1.40
通學服も種々取揃へて御座います。
あかや洋服店　平三　電203

各種物件を賣却して法定の解雇手當支給

筒井炭鑛休山圓滿に落着す

最近休山した赤井村筒井炭礦に於ける解雇手當の支給業用物件を賣却して法により好成績に鑑み各農家に種子に關し經營者と元從　業員る解雇手當支給額二千七百の無料配布を行ひ今年度耕との折衝が着々進行中の旨四を捻出し昨二日午後七時昨報の通りであるが右は萩鑛業所に於て關係者百餘名原鑛業所長、高橋平町議のに交附し無事圓滿に落着し盡力により經營者から各債權者の諒解を求め既報の鑛

喜んで居る、同會では之の好成績に鑑み各農家に種子の無料配布を行ひ今年度耕作反別百町歩を來年は三百町歩に增大させると意氣込んでゐる

激減二萬二千噸

夏枯れの最高頂に達した

去月中の常磐炭發送高

炭鑛の夏枯れは今や其の最高頂に達し一入不況氣分を上塗りしてゐる形ちであるが去月二十一日以降三十一日迄の常磐各山元送炭高は僅に

營業用　三二、一〇六噸
省　用　一四、五三七
合　計　五六、七九六

で前年同期に比し實に一萬百五十三噸を激減し同月中合計の送炭量十六萬千八百五十三噸は前年より二萬二千五百十七噸の一大減少である

石城梨が東京へ味覺奉仕の進出

五日關係者の協議會

郡下生産の梨は今や年收約の磐價を高むべく目下諸般六十萬貫と註せられ地方のの計劃中で五日午前十時から主要園藝を以て目せらるるら關係者が平團体事務所に至つたが郡果樹組合聯合於て出荷方法及び先進地の會及び郡農會では今年も東視察に就き協議打合會を備京方面へ移出し大に石城梨す事となつた

就職率僅に一割

失業洪水に面喰つた

去月中の平紹介所

平職業紹介所去月中の求職者取扱狀況は炭礦界の夏枯れと經營難の廢坑休山に因る失業者の激增と農閑利用の求職者が前月より四十八名增加し男百十六名、女二十名、計百三十六名であるのに反し求人は先月よりは九名昨年同期よりは五十八名減じて僅か男二十一名、女十七名、計四十四名に過ぎず從つて就職者も男十九名、女九名、計二十八名就職率二割と云ふ同所開設以來の不成績であつたと

平局の簡保一萬八千口

逐月向上を辿る

平郵便局に於ける四月からの簡易保險新規加入者は三月二十七日開所をなした平月二十七日開所をなした平の簡易保險新規加入者は三

平郵便局に於ける四月から

移入品に壓される各種清凉飲料水

比較的割高で品質も劣る

不況と天候に祟られた郡内清凉飲料水去月中の倉出高はラムネ十三石二萬四千四百五十七本、サイダー十九石一萬九百六十六本で昨年同期より四割强の減である尙郡下の製造業者は何れも家内工業的のものが多く小規模の關係から比較的割高で品質も劣等品が多いに反し移入品はサイダー一本八錢見當の低廉に加へ品質も極めて佳良なため大量生産の强味から地元製品が壓倒されてゐる形である

町立公民校

來月五日開始

平町立公民學校は既報の如く來月五日より平商校に開

拾つた話 —(30)—

自動車内混雜受難時代

虐待歡迎老幼顚倒珍風景

菊田方部點呼日割

植田署管内陸軍簡閲點呼は左記日割で執行する

四日植田校（植田、泉、山田）五日勿來校（勿來、川部、錦）六日田人校（田人組合村）七日入遠野校（入遠野、上遠野）

詰める、詰めるいか。

無制限に詰める。

×

定員外の收容に殃される自動車乘客の受難は利用者の一入輻湊する海水浴季中に於て更に命掛けの努力を强いて居る、産み月近い女などは腹の子を潰さるる悞れあり、白靴を穿いてる時と車内は我れ勝ちに頼まれなどゆめ乘り込み給ふな。

×

うすものを透して肉体の豐滿なマドムアゼルと、ムジ痒い接觸の陶醉に蕩るのは世にも嬉しい事ではあるが、野郎同志が臀々相摩するの蒸し暑さは近頃以て艶消しの沙汰ならずとせんや

芳芳たる白粉の香を漂はせ乍ら若いのが入つて來ると車内は我れ勝ちに頼まれ

もせぬにからだを縮めて自分の傍へ光臨の光榮に浴し貰ひ度いやう心窃かに祈念する揉み上げの青い不所存者が、月經閉止後三十年、度い處から盛にウエルカムの表情が交錯されるに反して『ドッコイショッ』てな調子で念佛講のメンバーらしい上に乘せて苦り切つてるないのでの入つて來ると殆どんかは餘りに皮肉な光景である。

×

今日も飛ぶ、飛ぶ。四倉へ。老、幼、男、女。色々が五五キロ、上川先生はまが六二、五キロ、松本先生が六〇キロ、坂内先生が四七、五キロです。藤田先生の様です、初日の便りはこれでやめます、左様なら。

スプリングの利かないボロ車に鮨詰めにされて前後左右に振り廻され乍ら、も少し隣りの女へブッ付けて

の錯綜した感情を乘せて——！。

拐帶して遊興

水戸市上市黑羽町鳥肉商羽田文藏方雇人窃盗前科一犯今井傳次(三七)は本年二月中二年の服役を了えて東京市豊多摩刑務所を出所以來前記に雇はれ中去月三十日取立金八十五圓を拐帶逃走し昨二日午後三時頃小名濱町上明神町料理店相馬家で遊興中暴動不審で平署員に檢擧され餘罪見込で目下取調中

大工町踏切修繕　三日から四日間片側通行止となる

平區罰金一束

△平町掻槌小路自動車運轉手佐藤正壽(三)は六月十一日小川村で松本ノブ(五〇)に衝突負治一週間の傷害を與へ罰金二十圓△磐崎村大字藤原字一本木橋本末治郎(四六)は四月下旬住居地内よりダイナマイト其他を發見し警察に通知せず罰金二十圓△四倉町字本町川合久助

一週間も二週間も前から赤ふんどしをかけて待つて注意などはもう耳にたこのゐた、今日の天氣はかすかに太陽の光が雲間からさしこんでゐるきりです。天氣を氣遣ひながら停車場に來て見るともう大部來てゐる藤田先生はかひがひしく荷物の方をお世話をして下さつてゐる、トラックに山と荷物を積んで一足先に四倉に行きました。

×

『先生の言ふ事をきくんですよ』

『あぶない所へ行くんではありませんよ』

『先生お願みいたします』

お母さんや、お姉さんの注意などはもう耳にたこの様です、何せ町から一歩も出た事のない連中ばかりですから大はしやぎです。

八時二十分云ひ古した言葉ではあるが、汽笛一聲！後へと殘して汽車は一路目的地にバク進する。

×

磯の香がつんと鼻に來るなつかしい香です。我等の八日間の宿は舊校舍の北側四教室です、六十四名の健兒は夫々力に應じて整理かたつけです、十一時過ぎには居心地のよい舍となりました。

×

始の證量測定をしました一番輕いのが五ノ二のH君の二二キロ、K君の二二、五決して御心配なく、僕達は生が四十五キロ、校長先生守つてきつと立派な体になつて歸ります。明日は天氣の便りはこれでやめます、左様なら。

×

お父さん、お母さん、それから兄さん、姉さんたちす、末たのもしいです。

低落品種が多い

町役場物價調べ

平町役場調査七月末現在の日用品物價左の如く六月末と比較すれば調査十七種中騰貴二、下落八、保合七の割合である

△白米上一キロ一六〇
中一五、五　下一五〇
△白麥六五平麥一〇五△
倉發同二十五分である
△木炭一貫匁一
六〇△檜一六〇檜割一四
〇雜丸一五〇△砂糖白百
匁一三〇赤一一〇△肉豚
上三〇〇下一五〇牛上四
〇〇下二五〇

第二丑の日臨時列車

平驛では八日の第二北の日に午前八時五分同十時三分發の波立藥師行臨時列車を運轉するが復路は久ノ濱發午後四時十六分、四倉發同二十五分であると

体育大會豫選　平町青年團では既報の如く七日午前九時から磐中で郡体育大會○雜丸一五○△砂糖白百豫選會を開くが申込期日は明後五日迄であると

新電話架設　平郵便局の今年度開通電話十口は十月頃迄に大体架設の運びになるであらうと

體操講習會

郡體育協會支部では今三日午前九時から向ふ三日間平第一、二校庭で體操講習を開催中であるが出席者約五十名講師は青山山梨縣體育主事、富田本縣主事、小林第一訓導である

滿洲行

藤田中尉信

第一師團第四十一聯隊

滿蒙農業植民に就て（續）

列車は間もなく

滿蒙農業植民に就て（續）

殖民に就て

蔡種好成績

四十五噸を移出

郡農會では此程菜種四十五噸を取纏めて東京方面へ移

軍の右側背を捜索しなし得る秋山好古騎兵旅團長は露

營間我軍の左翼警戒に任せ

明治三十八年一月沙河冬

殖民に就て

殖民に就て

列車は

滿洲行

藤田中尉信

蔡種好成績

四十五噸を移出

郡農會では此程菜種四十五

噸を取纏めて東京方面へ移

ればは其の背後を擾亂すべき

關河鐵道橋を爆破すべく翌

移入品に壓される各種清凉飲料水

比較的割高で品質も劣る

不況と天候に祟られた郡内清凉飲料水去月中の倉出高はラムネ十三石二萬四千四百五十七本、サイダー十九石一萬九百六十六本で昨年同期より四割强の減である尙郡下の製造業者は何れも家内工業的のものが多く小規模の關係から比較的割高で品質も劣等品が多いに反し移入品はサイダー一本八錢見當の低廉に加へ品質も極めて佳良なため大量生産の强味から地元製品が壓倒されてゐる形である

町立公民校

來月五日開始

平町立公民學校は既報の如く來月五日より平商校に開

海水浴案内

平驛最近調査

無料脫衣場、休憩所、自轉車預所、驛より二粁乘合十錢、貸間一ヶ月一疊當自五十錢至一五圓五十錢、脫衣所（無料一、有料六）警備船二見張所一、貸ボート一時間三十錢及二十錢泉驛より三、三粁自動車十五錢、軌道十五錢、一ヶ月一疊當り自一圓至一圓五十錢

無料脫衣所、無料休憩所、驛より二粁自動車十錢、一ヶ月一疊當り一圓

無料脫衣場、監視船驛より〇、五粁徒歩一ヶ月一疊當り五十錢

勿來名濱

勿來町學務委員　去二十八日町會で決定する筈であつたが都合に依り延期

入山自治會　入山炭鑛自治會では明後五日午後一時から小名濱海岸小名屋バラックに於て役員の海水浴を備すと

海水浴案内

平驛最近調査

無料脫衣場、休憩所、自轉車預所、驛より二粁乘合十錢、貸間一ヶ月一疊當自五十錢至一五圓五十錢、脫衣所（無料一、有料六）警備船二見張所一、貸ボート一時間三十錢及二十錢泉驛より三、三粁自動車十五錢、軌道十五錢、一ヶ月一疊當り自一圓至一圓五十錢

無料脫衣所、無料休憩所、驛より二粁自動車十錢、一ヶ月一疊當り一圓

無料脫衣場、監視船驛より〇、五粁徒歩一ヶ月一疊當り五十錢

勿來名濱

勿來町學務委員　去二十八日町會で決定する筈であつたが都合に依り延期

入山自治會　入山炭鑛自治會では明後五日午後一時から小名濱海岸小名屋バラックに於て役員の海水浴を備すと

緬羊飼養

泉村農會で

◇泉村農會では緬羊を飼育すべく農林省種羊場へ種羊の貸下方申請中の處今回認可されたので目下準備中

御贈答用品の御用命は

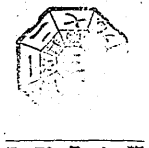
中野洋品店

平二〔電53番〕

（ボイル、麻、絹、縮）シャツ、ジバン類
ワイシャツとネクタイ、靴下類
敷布、タオル、ハンカチーフ
袋物ハンドバック（ボイル、レース）御袖とスカート
お寢着各種御袖
有名石鹸と化粧品詰合
たばこ各種
商品券、その他お体裁よく見斗ひ致します。

産婦人科
花柳病科
井阪醫院
平町田町（元合津醫院跡）
電話五五九番
午前宅診
午後往診
入院應需

潰金銀、古時計、外國金貨
高價買入
今が賣り時期御一報次第出張御相談仕ります。
東京㊫商會出張所
平驛前通り　星野時計店方
電話五九九



舊六月　八月
七月　丁酉
月　先負
三　滿
日斗宿　四日

▲一白の人　堅實に物事を運べば大吉となる短慮は厳戒▲二黑の人　日頃の業務に精勵して他に望みなければ吉▲三碧の人　結濟力を强めて一事に勉むれば安全を保つ▲四綠の人　氣運平靜なれど日上との間又金錢上注意▲五黃の人　前途ふさがりな生じて之が切開きに容易ならず▲六白の人　意氣あがらず不快に過ごすべき日病盜難注意▲七赤の人　逆境に立ちすこぶる不安なる日交際の紛きゆう注意▲八白の人　萬事不利に陥らんとする日本業とても注意▲九紫の人　己の本分とする所を盡くせば平安無事の日